

全日本 おっぱい サミット

あなたの知らない“おっぱい”の世界

“おっぱい”と聞いて、何を思い浮かべますか？
エッチなドキドキ？赤ちゃんの生きる糧？それとも癒し？
声に出すにせよ出さないにせよ、老若男女に愛される“おっぱい”がいま揺れています。

数年来「公共の場での授乳」の是非をめぐる世の中は大論戦。
「人前でするな!」「不寛容なこと言わないで!」「でも見たくない!」etc...
「公共の場での授乳」をめぐる、多様化する“おっぱい観”を追いながら解決策を探る
ママ向けウェブサイト「ハピママ*」特集ページへの反響を受け、
3年目のことしも『全日本おっぱいサミット』に各界のスペシャリストが集いました。

今回のテーマは「広い宇宙に、ママひとり？」

閉ざされた世界に生きるママの孤独を、私たちはどれだけリアルに想像できているでしょうか。
「授乳があるから仕方ない」「ママだから我慢して当たり前」...果たして本当にそうでしょうか。
“宇宙×おっぱい”のプロフェッショナルたちと、密室を開く扉のカギを一緒に探してみませんか。

2019 **10/27** (日)

10:30 開演 (10:15開場) ~12:00

会場 東京ウィメンズプラザホール

東京都渋谷区神宮前5-53-67表参道駅徒歩7分

入場料 前売 **1500**円 当日2000円
(0~18歳は無料)

前売券のお求めはチケットぴあで! [チケットぴあ pia.jp/t](http://ticketpia.jp/t)

Pコード:643722 (販売はイベント前日まで)

問合せ:oppai.in.public@gmail.com

主催:ライターズネットワーク

NPO法人子連れスタイル推進協会

企画:光畑由佳、ちかぞう、後藤晴美、今一生

メディア協力: [hapimama](http://hapimama.jp) (ぴあ株式会社)

後援:日本助産師会

国立青少年教育振興機構(申請中)

ロゴデザイン:山家由希

全日本おっぱいサミット2019

広い宇宙に、ママひとり? 公共の場での授乳問題と密室育児を考える



Kimiyo Hayashi



Takehiro Higuchi



Tsuchi Kanou



Murakami Mari



Con Isshow

「閉鎖環境で人間の心と体はどうなる?」を分かり易く解説!宇宙取材のエキスパート・林公代
ワンオペ主夫の日常を『おっぱいがほしい!』でセキララ告白 密室育児パパ×作家・樋口毅宏
密室の対極?共同保育で育ちドキュメンタリー映画もロングヒット『沈没家族』監督・加納土
おっぱい&ママの悩みを救え!ロングセラー『おっぱいとだっこ』監修 産婦人科医・村上麻里
授乳ショー(協力:授乳服ブランド・モーハウス)

進行役:フリーライター+編集者・今一生

全日本おっぱいサミット チケット/詳細情報はこちら → →

特集ページ「専門家と考える公共の場での授乳問題」 ご協力いただいている専門家の方々(敬称略・公開順):河合蘭(出産ジャーナリスト)、菅谷典恵(京野アートクリニック高輪ウンセラー)、仲綾子(建築家)、安藤哲也(NPO法人ファザーリングジャパン)、奥起久子(新生児科医)、宮川舞(弁護士)、かもんまゆ((社)スマートサバイバープロジェクト)ほか



全日本
おっぱい
サミット

第3回【全日本おっぱいサミット】2019 TOKYO

2019年10月27日(日)表参道・東京ウィメンズプラザ 開催

東京都「[東京ウィメンズプラザフォーラム](#)」参加事業

(後援：[日本助産師会](#)・[独立行政法人国立青少年教育振興機構](#))

「公共の場での授乳」をめぐる多様化する“おっぱい”観を追いながら、外出を控えがちになっている母子の抱える問題の解決と「ダイバーシティ」社会の実現を目指す【全日本おっぱいサミット】。2017年の第1回は主要全国紙等でも特集を組んでいただき、2018年の第2回にはテレビ・ラジオ他も加わり大反響をいただきました(※過去の反響【[別添資料1](#)】)。そしてこの度10月27日(日)、東京・表参道にて

「広い宇宙に、ママひとり?——公共の場での授乳問題と密室育児——」

を令和元年度のテーマとし、第3回【全日本おっぱいサミット】2019 TOKYOの開催が決定いたしました。

◆趣旨◆「公共の場での授乳」問題は、母子が自宅等いわゆる「私的領域」に隔離されることなく「公共」(社会)の一員として如何に存在し得るか、その可能性を考える糸口と我々は考えます。今回の【全日本おっぱいサミット】では密室が母子にもたらす影響を性別世代問わず理解し易い内容で発信すると同時に、親子が公共に開いてゆく展望として男性の主体的育児、共同保育や一時保育、子連れ出勤等を提示。赤ちゃんとの生活は悲壮な一本道を歩むものでは決してなく、緩やかな選択肢があることも提起する予定です。

◆公式サイト <http://www.kaiboken.com/bonyu-unei/2019/10/-2019-tokyo.html>

◆日時 2019年10月27日(日) 10:30(10:15開場)~12:00(予定)

◆場所 [東京ウィメンズプラザ](#) (東京都渋谷区神宮前5-53-67 東京メトロ表参道駅から徒歩約7分)

◆入場料 前売1500円 当日2000円(0~18歳は無料)

※前売券は [チケットぴあ](#) で販売中! Pコード: 643-722 (販売はイベント前日まで)

◆主催 [NPO法人子連れスタイル推進協会](#)、[ライターズネットワーク](#)

※主催者紹介【[別添資料3](#)】

◆企画 光畑由佳 ちかぞう 後藤晴美 今一生

※企画者プロフィール【[別添資料4](#)】

◆協力 [快適母乳生活研究所](#)

◆メディア協力 ウレぴあ総研 [ハピママ*](#)

◆トークショー登壇者・登壇団体(敬称略)

※登壇者プロフィール【[別添資料2](#)】

- ・「閉鎖環境で人間の心と体はどうなる?」を分かり易く解説! 宇宙取材のエキスパート・林公代
- ・ワンオペ主夫の日常を『おっぱいがほしい!』でセキララ告白 密室育児パパ×作家・樋口毅宏
- ・密室の対極? 共同保育で育ちドキュメンタリー映画もロングヒット『沈没家族』監督・加納土
- ・おっぱい&ママの悩みを救え! ロングセラー『おっぱいとだっこ』監修 産婦人科医・村上麻里
- ・進行役: フリーライター+編集者・今一生
- ・授乳ショー: 子連れワーカーママ&赤ちゃん(協力: 授乳服ブランド・モーハウス)

◆お問い合わせ先◆ 全日本おっぱいサミット実行委員会 oppai.in.public@gmail.com

以上

【別添資料1】第1回・第2回の反響（抜粋）

昨年度＝第2回【全日本おっぱいサミット】2018の反響（報道など反響抜粋）：



サミット公式メディア「ハピママ*」レポート

【全日本おっぱいサミット】再び！

「子連れ旅」バッシング&「旅育」メリット大検証 <http://ure.pia.co.jp/articles/414854>

→ 『専門家と考える 公共の場での授乳問題』

http://ure.pia.co.jp/list/sp?c=mama_jyunyu



NHK ラジオ第1「Nらじ」（平日18：00～20：00 ニュース番組）

旅行ジャーナリスト・村田和子さんが「ママだって旅したい！」をテーマに

【全日本おっぱいサミット】を約10分にわたりご紹介いただきました。

<http://www4.nhk.or.jp/nradi/>

11月6日（火）放送内容

タイムテーブル

午後6時台 ニュースのしゃべり場

02分ごろ きょうのニュース

09分ごろ ニュースアップ
『雇用のミスマッチ』

18分ごろ おすすめ旅行情報
『ママだって旅したい！』
村田 和子 さん（旅行ジャーナリスト）

30分ごろ ニュース解説
『対イラン制裁 日本及び各国の対応と影響』
出川 廣恒 解説委員

41分ごろ 気象情報
弓木 孝宗（気象予報士）

7時00分 NHKきょうのニュース

7時30分 特集 一本勝負
『メルケル首相引退表明 揺らぐEUの行方は？』
遠藤 乾 さん（北海道大学 教授）
ドイツのメルケル首相は、先月29日、中部
ヘッセン州の議会選挙で…続きを読む



TOKYO FM「Blue Ocean」(平日 8:55~11:00)

パーソナリティーの住吉美紀さんが番組内コーナー「スマイルナビ」(東京ガス提供)で【全日本おっぱいサミット】をご紹介くださいました。

<https://www.tfm.co.jp/bo/smartphone/index.php?itemid=143679&catid=329>



東京新聞

赤ちゃん連れて旅行はダメ? 渋谷で27日にサミット開催

<http://www.tokyo-np.co.jp/article/tokyo/list/201810/CK2018102102000110.html>



日刊ゲンダイ

お天気キャスター井田寛子も出演 “おっぱいサミット” って

<https://www.nikkan-gendai.com/articles/view/geino/240116>



専門誌『助産雑誌』(医学書院) 2019年3月号

「公共の場での授乳」と「赤ちゃん連れ旅」を考えるイベント開催

<http://www.igaku-shoin.co.jp/journalDetail.do?journal=38648>



【マンガレポート】おっぱいサミット～旅するおっぱい

イラストレーター「ごっちゃん」さんが、イラストルポを描いてくださいました。

<https://tabiiku.org/manga/oppai-summit/?fbclid=IwAR021b-X9ditSnR23Q5sJt60BFW>

[OPdZTwIokMwkeJiRz-bDOP6jLoFNyRTI](https://tabiiku.org/manga/oppai-summit/?fbclid=IwAR021b-X9ditSnR23Q5sJt60BFW)

※TOKYO MX 『5時に夢中』、同 『モーニング CROSS』 等でもご紹介いただきました。

※上記ほか SNS・ブログ等、多数のご反響をいただきました。

一昨年度＝第1回【全日本おっぱいサミット】2017の反響

(外務省認定・受賞・報道など反響抜粋)：



外務省認定：

「国際女性会議 WAW! (WAW! 2017)

シャイン・ウィークス公式サイドイベント」

https://www.mofa.go.jp/mofaj/fp/hr_ha/page23_002210.html



出版関連団体・ライターズネットワーク：

第23回ライターズネットワーク大賞【社会に働きかけたで賞】受賞

<http://www.writers-net.com>



サミット公式メディア「ハピママ*」レポート

「全日本おっぱいサミット」ルポ！

赤ちゃんの授乳がなぜ炎上？新常識も盛りだくさん

<http://ure.pia.co.jp/articles/-/135431>



サミット公式メディア「ハピママ*」告知記事

あなたの知らない“おっぱい”の世界へ！

トークイベント&授乳ショー「全日本おっぱいサミット」初開催

<http://ure.pia.co.jp/articles/-/112452>



朝日新聞

公共の場での授乳はOK？ 赤ちゃん目線で考えると……

<https://www.asahi.com/articles/ASKDL7W7ZKDLUBQU01C.html>

(2017年12月19日付・生活面)



東京新聞

公共の場での授乳ってアリ？ 3日、渋谷でサミット 社会のあり方探る

<https://www.47news.jp/localnews/prefectures/tokyo/654434.html>

(QRコード・URLは「地方紙と共同通信のよんななニュース」より)

※東京新聞には2018年1月26日付記事「公共の場授乳 賛成？反対？」でもご報道いただきました。



日刊ゲンダイ

チラシにドキリ…外務省主催“おっぱいサミット”の中身

<https://www.nikkan-gendai.com/articles/view/lifex/216677>



専門誌『助産雑誌』（医学書院）2019年3月号

「全日本おっぱいサミット」 公共の場での授乳問題を考えるイベント開催

<https://www.igaku-shoin.co.jp/journalDetail.do?journal=38108>



NPO 法人ウィメンズアクションネットワーク（理事長：上野千鶴子氏）

情報サイト WAN

イベント報告「全日本おっぱいサミット2017」 <https://wan.or.jp/article/show/7576>



渋谷文化 PROJECT

全日本おっぱいサミット～あなたの知らないおっぱいの世界～

<https://www.shibuyabunka.com/soft.php?id=11968>



書人宝庫

“おっぱい”からルネッサンス ——「おっぱいサミット」に向けた雑感——

<https://note.mu/syonan/n/n780d14bcf5fa>

※専門誌『[ペリネイタルケア](#)』（メディカ出版）等でもご紹介いただきました。

※上記ほか SNS・ブログ等、多数のご反響をいただきました。

【別添資料2】「全日本おっぱいサミット」登壇者プロフィール（敬称略）：

林 公代（はやし・きみよ）

神戸大学文学部英米文学科卒業。サンケイリビング新聞社、日本宇宙少年団情報誌編集長を経て 2000 年からフリーライターに。書籍・雑誌・ウェブサイトで宇宙関連の記事を企画・執筆・編集。20 年以上にわたって、宇宙飛行士・宇宙関係者へのインタビュー、NASA・ロシア・日本でのロケット打ち上げ、皆既日食、すばる望遠鏡（ハワイ）・アルマ望遠鏡（南米チリ）など、宇宙関連施設・関係者への取材を続けている。

[公式サイト](#)。

村上 麻里（むらかみ・まり）

産婦人科専門医。新潟大学医学部卒業。【[母乳 110 番](#)】顧問。「母乳育児の指南書」の決定版とも評される『おっぱいとだっこ』（竹中恭子著・[ペーパーバック版](#) PHP 研究所／[電子版](#) PHP 電子）では監修も務める。実戦的な母乳育児の講演は各地で好評。新潟大学付属病院、関連病院勤務を経て現在は都内の産婦人科クリニックに勤務。三姉妹の母でもある。

樋口 毅宏（ひぐち・たけひろ）

1971 年東京都豊島区雑司ヶ谷生まれ。出版社勤務の後、2009 年『[さらば雑司ヶ谷](#)』で作家デビュー。2011 年『[民宿雪国](#)』で第 24 回山本周五郎賞候補および第 2 回山田風太郎賞候補、2012 年『[テロルのすべて](#)』で第 14 回大藪春彦賞候補に。ほかの著書に『[日本のセックス](#)』『[二十五の瞳](#)』『[甘い復讐](#)』『[ドルフィン・ソングを救え!](#)』『[アクシデント・レポート](#)』など。またサブカルウォッチャーとしても知られ『[タモリ論](#)』『[さよなら小沢健二](#)』といったエッセイへのファンも多い。パパになってからは、『[おっぱいがほしい! 男の子育て日記](#)』や『[東京パパ友ラブストーリー](#)』等でも人気を博している。妻はタレント弁護士の三輪記子さん。

[公式 Twitter](#)（公式『[さらば雑司ヶ谷](#)』）。

加納 土（かのう・つち）

1994 年生まれ、神奈川県出身。武蔵大学社会学部メディア社会学科の卒業制作として、シングルマザーの母親に育てられた共同保育の試みを関係者に取材した『[沈没家族](#)』の撮影を 2015 年から始め、PFF2017 審査員特別賞などを受賞。卒業後はテレビ番組会社に入社。ドキュメンタリーや情報番組の制作に従事しながら、同作の「劇場版」を 2019 年春から全国公開。初監督作品となる。

[劇場版『沈没家族』公式サイト](#)。

【別添資料3】主催者紹介：

NPO 法人子連れスタイル推進協会

子育てと社会が共存する環境「子連れスタイル」を提案する特定非営利活動法人。

子連れでの行動やマナーが問題となっている一方で、一人きりで子育てするつらさに、とりわけ女性が精神的に追い込まれがちな現代社会。いつのまにか、ぷつりと切れてしまった「子育てと社会」・・・

「母になることは、何かをあきらめること？」

「子どもは、専用の場所にしか行くべきではないの？」

「仕事と子育ての両立は、優秀な人にしかできないことなの？」

・・・けれども、かつて畑や商店などでは子育てと社会は当たり前のように共存していたはずで、いまま発想を転換することで、両者の共存を実現している事例も決して少なくありません。子連れスタイル推進協会ではそのようなライフスタイルを「子連れスタイル」と名づけ、母だけでなく、男性を、女性を、家族を、地域を、社会を変えることを目指し活動。子連れで社会に出るイベント等を企画・運営し「子連れスタイル」の普及を促す「子連れスタイル推進事業」のほか、子連れの力を企業経営に活かす取り組みをサポートする「ワークライフミックス事業」、産後の女性が外に出るための情報提供を通じて外出や復職などを支援する「産後生活支援事業」などを展開している。

[公式サイト](#)。

ライターズネットワーク

ライターや編集者、イラストレーターやフォトグラファーなど、出版をはじめとしたさまざまなメディアで活躍するクリエイターの親睦団体。

1993年の創立以来、編集者を探している、ライターを探している、またライター自身から寄せられる他のライターや編集者に会いたいなどという声に応え、かつそういった人たちが有機的に結びつく場として、およそ四半世紀にわたり活動を続けている。

なお団体として仕事の斡旋はしていない（個人的には自由）が、[全国会員デジタル名簿](#)をウェブ上に公開。お互いの情報交換も活発に行われ、書籍・雑誌・小冊子などの紙媒体、電子上のあらゆる表現、講演・ラジオ・舞台などのリアルも含め、多くの会員が著作や作品を発表している。

年に一度の大イベント「ライターズネットワーク大賞授賞式」では、優れた活動を行った会員に対して賞を授与。発表された作品のすべてが正しく評価されるわけではないため、限られた範囲にしか公表されないケースや、人目に触れづらい媒体に掲載されたものにもスポットを当て、皆で褒め称えている。

参考：

第21回以前の授賞式と受賞作品、選考理由は[こちら](#)。

第22回（2017年）授賞式の様子は[こちら](#)。

[公式サイト](#)。

【別添資料4】企画者プロフィール：

光畑 由佳（みつはた・ゆか）

子連れスタイルで子育てと社会を結びつけ多様な生き方や育て方、働き方を提案する NPO 法人「[子連れスタイル推進協会](#)」代表理事&授乳服ブランド「[モーハウス](#)」代表。産後の新しいライフスタイルを提案し、授乳服の存在を国内に広めてきたパイオニアとして知られる。社会と授乳、公共の場での授乳についても自社で実践する「子連れワークスタイル」が国内外から注目され、女性のチャレンジ賞など受賞歴多数。「暮らしの質」向上検討会など政府関係の有識者会議委員を歴任するほか、2014年に北京で、2016年にペルーで開催された「APEC 女性と経済フォーラム」にも参加。内閣府男女共同参画担当大臣表彰（女性のチャレンジ賞）審査員。中小企業経営支援分科会委員。茨城県ユニセフ協会評議員。茨城県行財政改革推進懇談会委員。つくば市行政経営懇談会委員。茨城大学社会連携センター特命教授。筑波大学大学院非常勤講師。著書に『[働くママが日本を救う！～「子連れ出勤」という就業スタイル～（マイコミ新書）](#)』。

ちかぞう（ちかぞう）

ライター／イラストレーター／中国語翻訳者。15の春から中国とのお付き合いが始まり、四半世紀を経た不惑+。かの国について文章を書いたり絵を描いたり、翻訳をしたり。子どもたち＝中学生&双子（保育園児）を授かってからは育児ネタにも取り組み、今回の「[ハピママ*](#)」特集ページ「子育てママのモヤモヤ解決シリーズ」[「専門家と考える 公共の場での授乳問題」](#)では全取材を担当したのをはじめ、ママ目線の記事（e.g. [爆笑問題様インタビュー](#)）や、双子親ならではの実体験レポートを多数執筆。目下絶賛授乳中。中国関係では、びあ株式会社のウェブサイト「[ウレぴあ総研](#)」で女優・宮澤佐江さんの連載「[ミラチャイ](#)」開始時に取材構成を担当し、中国語指導等にたった経験も。近年はインバウンド、とりわけメディカルツーリズムに携わる一方で、国内最大の発行部数を誇る週刊総合中国語新聞「[中文導報](#)」に寄稿したり、季刊誌『[中国紀行 CKRM](#)』（主婦の友ヒットシリーズ）ほかで中国文化を紹介する連載（執筆・イラスト）を展開するなど、積極的な情報発信を続けている。

後藤 晴美（ごとう・はるみ）

「[ウレぴあ総研](#)」編集長。ファミリー向けサイト「[ハピママ*](#)」ではママが知って得する情報を月に60本以上配信。そのほかにも「[mimot.（ミモット）](#)」「[うまい肉](#)」「[うまいめし](#)」「[ディズニー特集](#)」といったメディアサイトを統括。

今 一生（こん・いっしょう）

フリーライター／編集者。著書に『[よのなかを変える技術](#)』（河出書房新社）、『[猫とビートルズ](#)』（雨樹一期・写真／金曜日）など。編集者としての近刊は2017年10月刊行の『[日本一醜い親への手紙 そんな親なら捨てちゃえば？](#)』（dZERO）。ここ15年ほどはソーシャルビジネス／ソーシャルデザインによる社会的課題の解決事例を取材し、モーハウスやAsMamaなどをいち早く紹介している。

[公式サイト](#)。

以上